

和歌山市水害記事

109

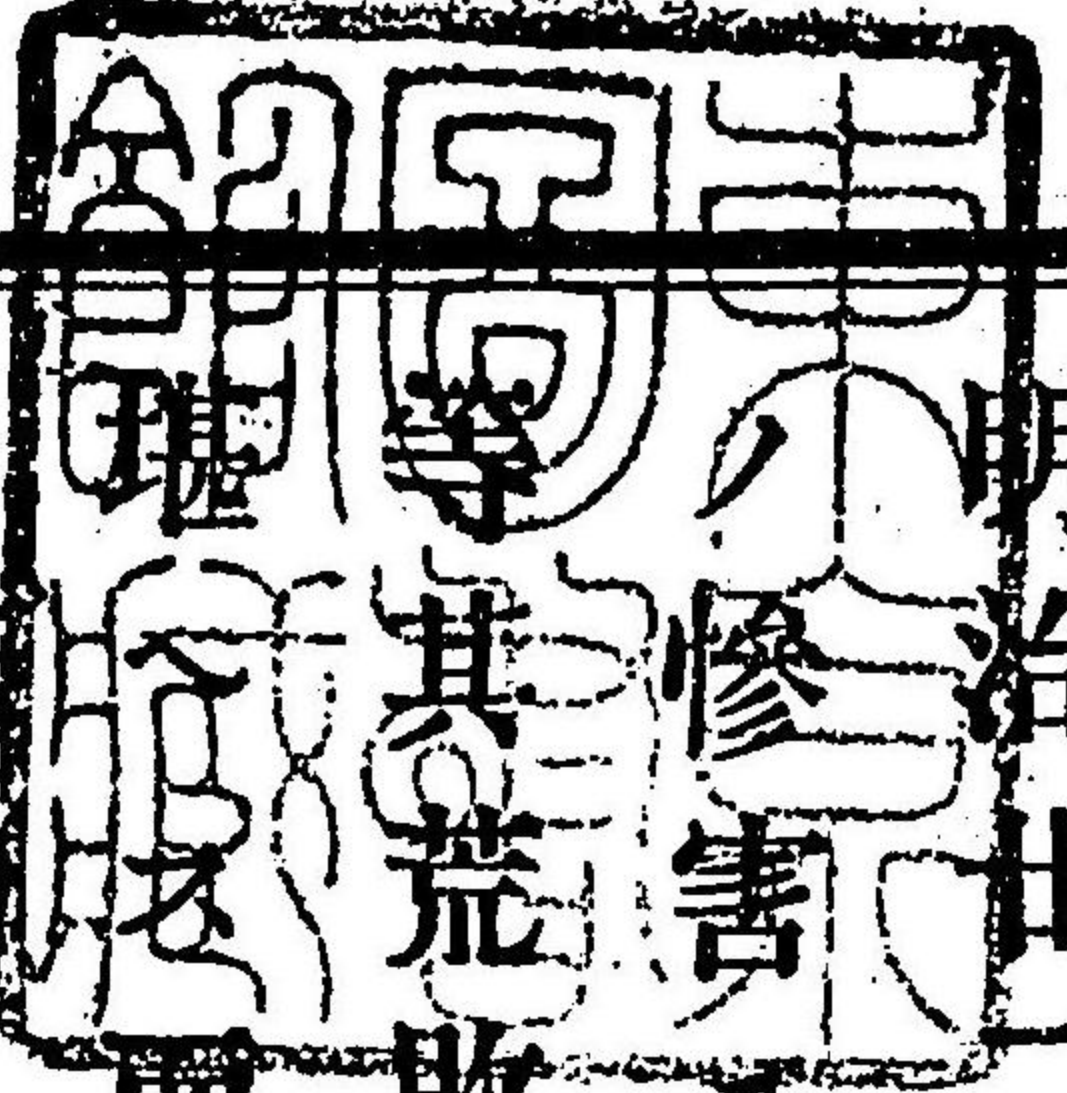
51

109
51

和歌山市水害記事

序

明治廿二年兩回ノ大洪水ハ實ニ非常
 慘害ヲ極メ人畜ノ死傷物貨ノ毀滅
 等其荒敗ノ甚シキ殆ント名狀スルニ
 而シテ災后衆民ノ困頓ヤ悽然
 愴然將ニ寒餓ニ迫ラントス茲ニ大幸
 ナル哉 朝廷優渥至仁ナル恩賜ヲ垂
 レサセラレ且縣恤ト志士ノ義捐トニ

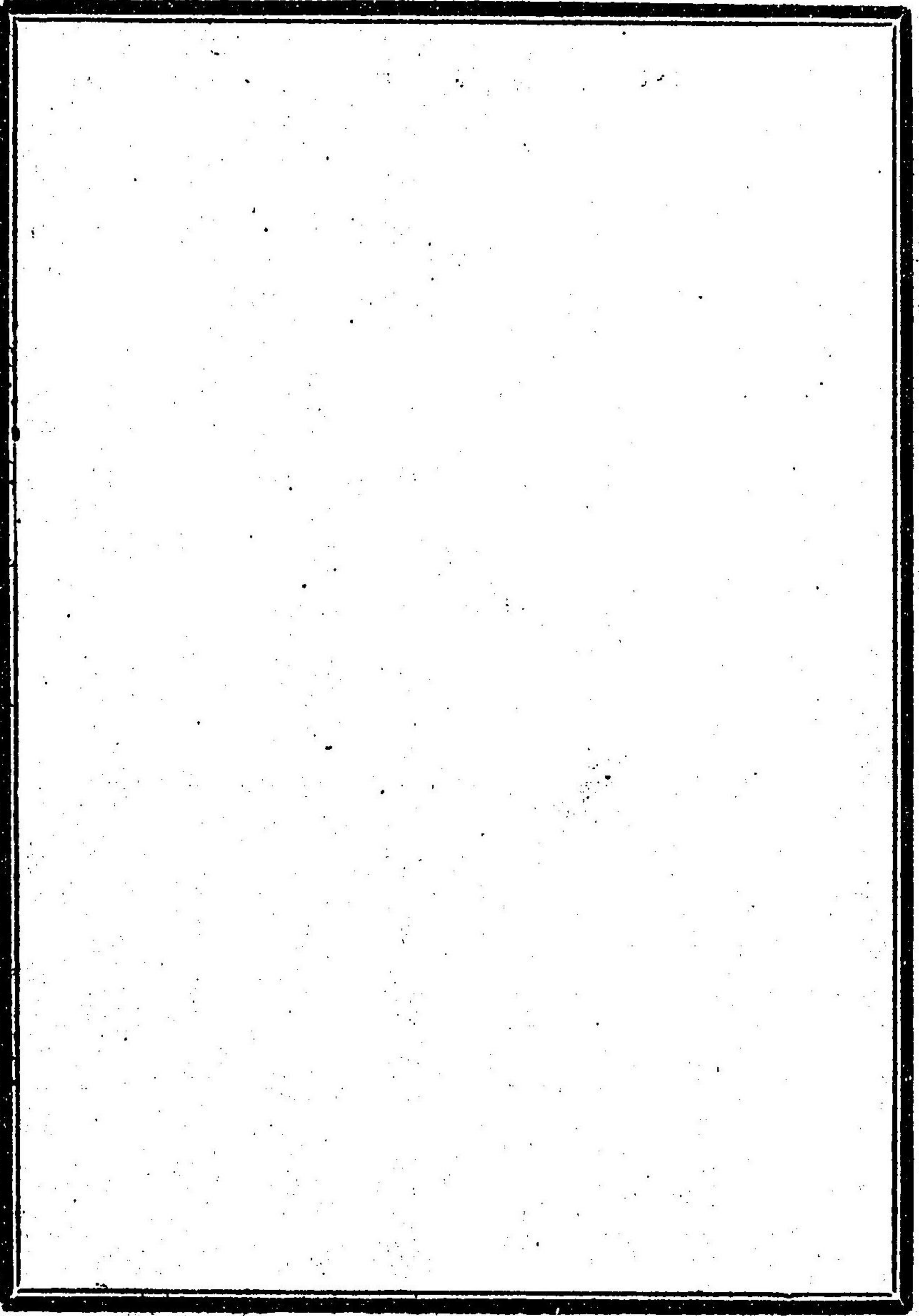


因リ焦眉ノ急殆チ免カレ罹災者漸ク
安堵スルヲ得タリ然リト雖トモ其餘
弊ハ商工業ノ不振ニ陥リ一朝之ヲ救
濟スルニ由ナク大ニ市中ノ財源ヲ涸
渴セリ洵ニ斯ノ如キ洪害ハ空前絶後
ト謂フヘシ因テ其ノ被害ノ概要ヲ採
録シ後人ヲシテ當時ノ實況ヲ想見セ
シメントスルハ蓋亦無用ニ屬スヘカ

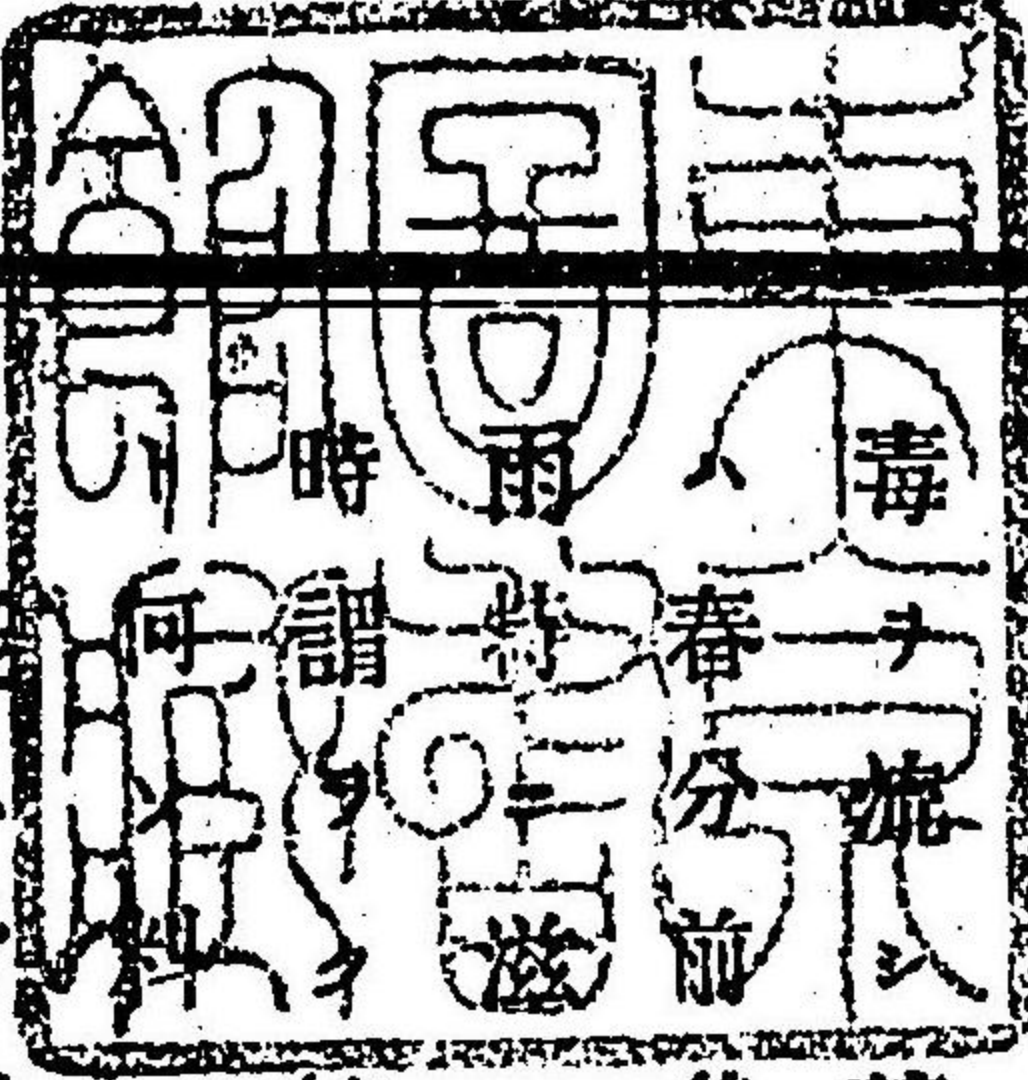
ラナルヘシ而シテ其録スル所皆直接
其事ニ關與シテ之ヲ目撃親聞シ又ハ
吏員ヲ派遣シテ調査セシメタルモノ
ナルヲ以テ一一正確ナリトス讀者夫
焉ヲ諒セヨ

明治二十二年十一月

從六位勳五等 長屋喜彌太識



和歌山市水害記事



明治二十二年和歌山市ニ非常ノ洪水アリ雨師茶
 毒ヲ施シ蒼生皆ニ塗炭ニ墜ルノミナラス抑本年
 春分前後ノ氣候寒暖皆ナ度ヲ失ヒ清明ヲ過テ
 雨特ニ多ク旬僅カニ二三ノ霽色ヲ見シノミ當
 時雨ハ梅天ニ入レハ即チ曠乾初暑ヲ醸スヘシ
 何故ニテハ霖霖凄冷ニテ未タ襖衣ヲ脱スルコ
 ト能ハズ已ニシテ驟カニ劇暑トナリ而後暫ラク
 炎威ヲ殺キ七八月ノ交ニ當リ陰晴定マラス蒸熱
 ノ酷シキ夜半ニ至リテ猶甑中ニアルカ如ク人ヲ
 レテ苦惱ニ堪ヘサラレム竟ニ八月十八十九ノ兩
 日大雨強風ノ變異ヲ來シ諸大川ニ災スルヲ甚レ

古今史乘未タ曾テ此ノ如キ暴雨ヲ記スルモノアラ
ラス最大ナル破雲雨ト稱スヘレ實ニ尋常ニ非サ
ルナリ是ヲ以テ當市ノ如キハ漲溢氾濫ノ害ヲ被
リ痛傷慘擗ヲ格ム其景狀ノ詳悉ニ至テハ口能ク
陳ルヲ得ヌ知ンヤ一枝ノ筆豈其全豹ヲ描クコト
ヲ得ン姑ク一斑ヲ寫レ付スルニ畧圖ヲ以テス且
遭災物件ノ統計等彼是相照シテ一覽セハ粗之カ
實況ヲ察知スルニ庶幾ラシカ
和歌山市ハ紀川ノ西下レテ海ニ入ントスル所ノ
南ニ在リ川水ノ流域幾ント三十里ニシテ源ヲ東
方大和ニ發レ群峰ノ聚潦ヲ承ケ南北ノ溪澗數支
ヲ併セリ年々一二回ノ洪漲アルヲ免レヌ而シテ

雨脚若シ北東風ニ伴フトキハ水量尤モ多キヲ例
トス八月十八日拂曉風雨起ル暫アリテ風位北東
ヲ占メ速力漸ク進ミ雨モ亦隨テ加ハル十九日ノ
晨旦ニ至リテ強風トナリ午前九時頃迅疾ニシテ
南東ニ轉レ降雨或ハ大或ハ小斷續歇マヌ午前十
時乃至十一時ノ間暴瀉傾盆ノ狀ヲナス午後十一
時和歌山市ヲ距ル凡ソ一里紀川ノ上流名草郷ニ
屬スル堤防將ニ決潰セントスルノ報アリ直ニ市
長助役其他名譽職市參事會員并ニ市役所吏員ハ
驅テ各坊ニ趨リ市民ヲシテ豫メ戒嚴セシム然ル
ニ市ノ東部ニ在リテハ未タ曾テ此川水ノ浸害ヲ
蒙リシユトナク殊ニ夜半就寢ノ後ニアリシヲ以

ヲ半醒半睡半信半疑殆ント意ニ介セサルモノ、
如シ己ニシテ名草郡ニ屬スル宇岩橋出島ノ堤防
破壊シ又タ川上三里ニ在テ那賀郡ニ屬スル宇新
在家三堤防决潰シ此水ヲ合セ田野ニ滿溢シ直ニ
和歌山市ノ東部ヲ衝キ倏忽ニシテ中部以北ニ延
及シ奔波横流闔市四分ノ三ヲ浸シ其深キハ門闕
上丈餘ニ及ヒ墻壁ヲ敗リ屋舎ヲ湛シ僅ニ餘ス處
四分ノ一トス其内市ノ西部ニ屬シ紀川末流ノ沿
岸ニ湊ト稱スル地ノ西隅各坊ハ平時ノ出水モ若
進潮ニ會ヘハ川海相闘ヒ回浪ノ爲メニ人家ノ床
上ヲ濡スコト稀ナラス此度モ嚴警シテ家具蓆席
ヲ撤收シタルモ中ニハ其準備稍徒爾ニ歸セルモ

ノアリ蓋是レ上流堤坊决壊シテ本川新タニ數派
ノ水路ヲ開キ漲末却テ多カラサリシカ爲ナリ之
レニ反シ市ノ東部ナル新町七十八坊北新町十七
坊ノ如キハ被害最酷シク加旃市内ニ南流スル藻
屑川ノ六橋悉ク落去シテ忽チ援助逃避ノ路線ヲ
截斷シ舟楫ニ頼ラサレハ街衢ヲ來往スルヲ難ク
舟楫アルモ亦隘巷東西ニ通スルノ地ハ左右ノ連
檐自カラ堤坊ヲ爲シ怒浪急激ニ及ヒ熟手篙師モ
畏怖シテ之ヲ刺スコトヲ肯セス暫ク救濟ノ道ヲ
絶ツニ至レリ二十日午時水勢稍減退ス是ニ於テ
船郎ヲ勵マシ市吏員乗セテ諸方ニ向ヒ力ヲ竭サ
シム家屬四面濁浪ヲ繞シ一身道路ヲ失ヒテ棟梁

ノ上ニ蹲リ戸扉亮榻ヲ積ンテ立テ屋背ニ坐スル
モノヲシテ甲ハ檀板ヲ破ラシメ乙ハ窓眼ヲ穿タ
シメ椽桷舟ヲ支ヘテ人ニ近クユト能ハサルモノ
ハ篙ノ一端ヲ藉シ之レヲ援テ游カシメ特ニ危急
ニ迫ルモノヲ苓牀ニ移レテ牀上ヲ浸漬セサル寺
院學校ニ送レリ水未タ家ニ至ラサルニ先テテ遁
逃シ或ハ街路ヲ没スルモ才カニ厲掲シ得レハ老
ヲ扶ケ幼ヲ負ヒ囊橐ヲ戴キ或ハ裸體ニレテ肩ニ
毛布ヲ纏ヒ蓬髮ニシテ禪ヲ腰下ニ著ケ或ハ夜被
己ニ濕ヒタレハ寒ケスレテ馮涉スルアリ子ニ別
レ母ヲ失ヒ惴々トシテ前後相繼キ之カ難ヲ避キ
得可キ屈強ノ寺院學校縣會議場ニ集ルモノヲ合

セ凡五千八百人ハ一時團飯饘粥ヲ與ヘテ其飢ヲ
凌カレメ水中ニアリテ家屋ヲ護リ暴竈沈ミテ炊
クコト能ハサルモ其遭難深カラスレテ必レモ陸
ニ移スニ及ハサルモノ凡貳万四百七十人ハハ斃
梅團飯ヲ送リテ配與スト雖モ水衝ニ富ルノ地ハ
數時間舟ヲ行ルコト能ハス況ンヤ災家幾ント壺
万ノ多キ極フテ漏サハラント欲スレトモ得ス傳
ヘ聞ク某家ニ一婦アリ幼兒ヲ字フ水湛テ屋内ニ
アルヲ得ス終ニ檀板ヲ穿テ雨ヲ冒シテ屋頭ニ立
ツ其母子ノ第二ノ家トスル一小織ハ風ノ爲メニ
颺揚セントスルコト數ハナリシモ手之ヲ放ダス
霽レテ而シテ後救護者ノ到ルヲ待ツコト凡ソ三

十時其始幼兒ヲテ乳房ヲ哺マシメ慰籍シテ以
テ屋脊ノ跼キニアルコトヲ感セシメサリレモ母
亦飢渴ヲ覺フルニ隨ヒ乳漿竭キテ一滴ナク呱呱
啼テ止マズ竟ニ其聲ヲ嘎ラレテ微々呻吟シ惡熱
ヲ發シテ雙目ヲ閉テ睡ラステテ夢幻ノ中ニアリ
二十一日ノ晡時一飯ヲ得タリト雖トモ渴シテ喉
ヲ下ラス偶驟雨アリ乍テ繼テ倒マニシテ之レヲ
承ケ一掬ノ水ヲ得テ兒ニ與フ兒纒ニ吐キ一喫シ
豁然眼ヲ開キ頓ニ笑ヲ含ミ舌ヲ鼓レテ初メテ甦
スルカ如ク未タ之ヲ嘗メサルノ母モ自ラ甘露ヲ
得タルノ想アリシト云フ其隣人ノ屋頭ニ在ルモ
ノハ其上ルノ初メ柱仗セシ一統アリ其端末ニ手

巾ヲ結ヒ之ヲ檐下ノ濁水ニ漬レ曳テ以テ之ヲ揩
リ飲下シテ渴ヲ醫セリ水中ニ在テ水無キニ苦ミ
窮策此ニ及フヲ思ヘハ渴ヲ忍フハ飢ヲ忍フヨリ
モ難キユトヲ知ル斯ノ如キ慘狀アリレモ幸ニ救
援ノ方ヲ誤マラスシテ死傷者甚ク寡ク屋舎ハ荒
廢ニ屬スルモノ多キモ術術串連軒簷櫛比交互關
繫維持シテ流失セシモノ亦尠シ官舎縣立學校病
院等ハ城畔ニアリテ其位地自カラ高ク幸ニ其遭
害概計ノ外家々財産什器ヲ敗損耗失セシモノ其
價幾萬ナランカ未タ其詳細確實ナル價額算スヘ
カラス抑モ這回ノ暴虐ハ其罪專ラ雨師ニ歸スヘ
ント雖モ一遠因ナキニアラス和歌山測候所ノ測

定ニ據ルニ其雨量百十佛里餘ニレテ一方里ノ容量凡ソ九千四百萬斛ニ過キス紀川ノ水量ハ和歌山ノ北端ニアリテ一丈六尺餘未タ以テ常年洪水ニ比レ甚タ多キヲ加ヘタリト謂フヘカラス但上流堤防ノ決潰ニ因リ多量ノ水ヲ川外ニ導キタルカ故ニ直ニ之ヲ將テ比例シ難シ和歌山ヲ距ル上流九里伊都郡妙寺ニ在テモ亦一丈六尺ノミ是ニ由テ之レヲ觀レハ獨リ水量多カリシカ爲メニ堤防ヲ破リ災害ヲ作シタリトスヘカラス春來ノ雨水堤防ノ中心ヲ滲漸シ或ハ罅漏ヲ生シ或ハ根脚ヲ毀損シ自ラ脆軟ナラシメタルニ兩日ノ大雨ニ河水隨テ積漲シ遂ニ決壊多キヲ致セリ故ニ本

市ノ水害ハ堤防ノ破潰ニアリ堤防ノ破潰ハ春來連旬ノ雨ニアリ其被害ノ大字數及ヒ物件數量等ノ概計左ノ如シ

浸水遭害ノ町數	二百五十六	流失家屋	ナ
全倒潰家屋	四十二	半倒潰家屋	四
浸水家屋	九千六百四十九	死者	六人 男五人 女一人
負傷者	七人 男六人 女一人	流失船舶	五艘
流失家財	凡五万三千七百三十八圓余	破損道路	三千六十間
流失橋梁	七ヶ所 百四十七間四分	破損橋梁	二ヶ所 二十間六分
破損堤防	八ヶ所 十間		

前叙ノ暴害ヲ距ルコト二十三日則九月十一日ニ於テ復タ洪水アリ前者ニ比スレハ其災稍輕キモ

己ニ巨害ノ後ヲ承ケ瘡痍未タ癒ヘス衣食未タ給
セサルノ際ナレハ特ニ其慘毒ヲ極メ更ニ甚レキ
ヲ加フルカ如シ茲ニ遺害ノ概狀ヲ記ス抑モ九月
十日午前八時頃ヨリ時々降雨アリ或ハ斷或ハ續
風亦甚レ十一日午前ニ至リ雨愈強ク添フルニ東
北位ノ暴風ヲ以テ尋テ西北ニ轉シ風雨共ニ刻
一刻ヨリ猛烈ニシテ終日大陽ヲ見ス陰雲四塞雨
少クモ歇マス天候頻ニ不穩ノ景象ナレハ或ハ恐
ル洪水再至ノ兆ヲラント則市吏員四方ニ分派シ
人々ニ警戒ヲ加ヘ逃避ノ備ヲ爲サシム果シテ紀
川暴漲水層太ク高ク洪波怒駭忽々名草郡所屬ニ
於テ嚮日ノ洪水ニ決潰セシ假堰ノ堤防數所ヲ悉

ク奪去シ又更ニ幾多ノ決所ヲ生シ其漲溢スル水
鋒忽々和歌山市ニ突入レ市内川々ノ流勢嚮者日
リモ一層高ク假ニ橋梁ヲ架セシモノ六所瞬間ニ
流落シ復タ一ヶ所ヲ存セス加之新ニ落橋セシモ
ノアリ其浸水ノ個所深淺差異アルモ大抵嚮日ノ
洪水ヨリモ高キユト四五寸ニ及ヘリ故ニ市民ノ
驚愕困苦實ニ甚レ然レトモ己ニ前害ニ懲リ多少
其準備ヲ爲スカ故ニ幸ニ人畜ノ死傷ナレ啻一死
者アルハ曾テ癩癩病ニ罹リ危篤ニ瀕セシモノナ
リト云フ然レ其被害ノ物件數量等概テ左ノ如シ
浸水遺害ノ町數 二百五十八 流失家屋 九
全倒潰家屋 三十八 半倒潰家屋 二十

浸水家屋 九千六百九十七 死者 男一人
 流失船隻 五艘 流失家財 九千八百
 拾石未滿 四 流失橋梁 七所
 破損道路 九百七十四間 破損堤防 七所
 破損橋梁 十二所
 前後兩回ノ兇變ニ因リ富市人民ノ被害重キハ生
 命ノ隕歿輕キハ身躰ノ疵傷又ハ家屋全潰或ハ半
 倒潰家財什具ノ蕩盡レテ一物タモ存セサルアリ
 其小ナルモ屋舍牆壁ヲ毀壞レ衣器疊席ヲ霑濡ス
 ルニ至レル等ナリ其大小輕重千差萬別アリト雖
 トモ齊シク其悲痛ヲ感セサルハナシ就中細民ニ
 於テハ食フニ資ナク被フニ衣ナク飢寒並ニ至リ
 疾疫將ニ起ラントス是ヲ以テ當初ヨリ我市吏員

拮据奔走救護ニ從事スルハ論ナク恤救賑濟ハ力
 メテ方便ヲ盡シ團飯糜粥ヲ頒給スル等機ニ臨ミ
 事ニ應レ便宜ニ之レヲ施行セリ此際米價ハ騰貴
 スルコト大抵常價ニ三割乃至四割強ヲ加フルニ
 及フ其困難ノ狀筆舌ノ能ク記述スル處ニアラス
 又思慮ノ能ク想像シ得ヘキ所ニアラサルナリ然
 レトモ頼ムニ備荒儲蓄法ノ在ルアリ己ニ本縣廳
 ニ請フテ公儲金ヨリ前後合セテ金壹萬八千九百
 拾四圓五拾壹錢五厘ノ支出ヲ受ケ是ヲ以テ窮民
 ニ一時ノ救助則テ團飯糜粥ノ配給又ハ食料小屋
 掛料農具料下付方ヲ施行シ以テ斯民ヲシテ飢渴
 凍餒ノ患ナク又逃竄流離ノ憂ナカラシムルコト

ヲ得タリ加旃前回ノ遭害ニ方リテハ事情畏クモ
叡聰ニ達レ 聖上 皇后兩陛下ノ至仁極惠ナ
ル特ニ多額ノ御金ヲ下賜ノ旨ヲ以テ縣廳ヨリ其
配當ノ幾分金額ヲ下與セラル其鴻恩ヲ宣示レ金
圓ヲ頒與スルニ於テ窮途ニ沈迷スルノ衆氓相牽
ヒテ匍匐拜戴感喜ノ餘尋クニ泣涕ヲ以テス於戲
乾覆坤載ノ德蒼生ヲ愛育シ給フ優渥ノ仁旨豈永
ク心肝ニ銘シ重荷セサル可ケンヤ又各地慈善家
ノ義捐寄贈ヲ辱フスルモノ甚多ク殊ニ正二位德
川侯爵正五位安藤男爵日本銀行總裁川田氏等ヨ
リ許多ノ惠賜アリ其他金圓物件等ヲ投與セラル
ハ實ニ枚舉ニ遑アラヌ其義捐金圓當市罹災窮

民ニ施與セシ金額ハ四千八百六拾六圓四拾七錢
四厘ナリ又々直ニ遭害者ニ寄贈セラレタル米
穀金圓衣食品ノ類モ亦夥多ナリトス以テ燒屑ノ
救恤ヲ普クシ衆多困難ノ者ヲシテ安堵ノ思ヲ爲
サシムルヲ得タリ是最モ各慈善家ニ對シ人民ニ
代リ其厚賚ヲ拜謝セサルヘカラス因テ茲ニ大概
ヲ記シテ以テ其意ヲ陳ス夫天變地異ハ古今トナ
ク東西トナク其之ナキハナク史乘載籍ノ傳ル所
其跡多々ナリト雖トモ前後相踵キ災殃荐リニ臻
リ一閱月ナラサルノ間ニ如此暴虐ヲ降スコト我
市ノ如キハ未ダ曾テ聞知セサル所ナリ嗚呼皇天
何ソ特リ我ニ福セサル乎雖然古語ニ謂ハスヤ天

ノ作セル藥ハ猶ホ避クヘント奈何ソ豈管ニ之
ヲ天爲ニ諉レ去リ人智ヲ用ヒ回復ノ術ヲ討究セ
スレテ止ム可ケンヤ是ヲ以テ上ハ救濟ノ方善後
ノ策宜シク力ヲ竭レ慮ヲ極メテ以テ計畫シ以テ
施爲ス可ク人民ニ在リテハ其志氣ヲ沮喪セス其
精神ヲ振作シ各自カラ他ニ倍シテ研精シ所謂人
之ヲ一タヒスレハ己之レヲ十タヒヒレ人之レヲ十
タヒスレハ己之レヲ百タヒストノ念慮ヲ起シ辛
劬勤勞以テ其筋骨ヲ吝マス其艱苦ニ耐ヘハ則チ
禍ヲ轉シテ福トナスノ道何ソ必シモ無レトセン
乎焉ソ知ラン今日ノ災殃異日福祉ヲ得ルノ地ナ
ルユトヲ浩々タル昊天ハ決シテ我市ニ禍セサル

ナリ豈勤メサル可ケン哉

備考

八月二十日黎明高津書記官前夜來浸水地ニ派遣
シ市長ヲ尋チ來ツテ曰ク昨夜來ノ非常浸水ニ對
シ縣廳ニ於テ臨機ノ處分ヲ行ハントスルニ知事
始メ重ナル縣官ハ他府縣ヨリ赴任シタルモノニ
シテ右ノ處置ニ苦シム速ニ來テ協議スベント則
チ同船シテ知事出張ノ許ニ到リ茲ニ於テ市長
曰ク從來浸水ノ場合ニ際シ其救難ノ緊要ハ飲料
水ト食食トニアリ然ルニ市内米商專業家ハ皆浸
水セリ故ニ之レニ就テ出米セシムルニ由ナリ如

カス大阪市ニ就キ之レヲ輸入セシメントスルニ
併レ電信ノ通否ハ奈何ノ則チ之レヲ調ベシムル
ニ依然通スルトノ報ニ依リ直ニ打電レテ大阪府
知事ニ精米五百石ヲ速ニ和歌山市ニ回漕ノ勞ヲ
依頼シ置キ差向キ浸水外ノ酒舗其他ヨリ空樽ヲ
集メ之レニ良水ヲ入レ監獄署ニアル精米ヲ流用
シテ團飯ヲ製シ之ヲ俵ニ入レ樽詰メノ水ト共ニ
警官市吏員等船ニ乗シテ諸方ニ向ヒ之レヲ配給
セシム難民之レニ依テ飢渴ヲ免カレ大ニ其救護
ノ厚キヲ感銘セリ

附言 災後米價暴騰レテ拾圓内外ニ到リ細民之
レニ苦シム因テ曩ニ大阪ヨリノ回漕米ヲ破格

ノ安價即チ石六圓五拾錢ノ割ヲ以テ一戸ニ付
三升宛市内各所ニ於テ之ヲ拂下ケシム其石數
前後併セテ四百五十石之レガ爲メ米價ノ騰貴
ヲ抑ヘタリ因テ貧民亦救護ノ周到ナルニ敬服
セリ而レテ殘米五十石ハ縣下日高郡内精米欠
乏郡民之レニ苦シム趣ヲ聞キシテ以テ該地ニ輸
送セリ

二十二年八月十九日并ニ同年九月十一日遭災者
一時避難ノ場所ハ左ノ如シ

林泉寺丁林泉寺 鷺之森本願寺懸所
新中通四丁目真光寺 吹屋丁功徳寺
西瓦町光泉寺 吹屋丁久成寺
茶屋町 大新尋常小學校 新大工町 新北尋常小學校
北新戒ノ丁 新北尋常小學校分校 廣瀬通丁二丁目廣瀬尋常小學校
東紺屋町念誓寺 壹番丁 縣會議事堂
道場町海善寺 小人町南之丁 西岸寺
嘉家作リ丁堤防 石橋丁堤防
同上遭災ノ際焚出場所左ノ如シ

久保丁壹丁目志賀安太郎方 八月二十日朝ヨリ全月二十二日夕迄團飯焚出シ

小野町三丁目大谷熊吉方

八月二十一日朝ヨリ全夕迄團飯焚出シ

和歌山監獄

八月二十日朝ヨリ全二十二日夕迄團飯焚出シ

嘉家作リ高橋三之丞

八月二十日朝ヨリ全二十二日夕迄團飯焚出シ

鷺ノ森本願寺

八月二十二日夕ヨリ九月二日夕迄團飯焚出シ

新中通四丁目真光寺

八月二十二日夕ヨリ九月四日夕迄團飯焚出シ

東紺屋町念誓寺

九月十三日朝ヨリ全十六日夕迄團飯焚出シ

西田中町大立寺

八月二十二日夕ヨリ九月五日夕迄團飯焚出シ

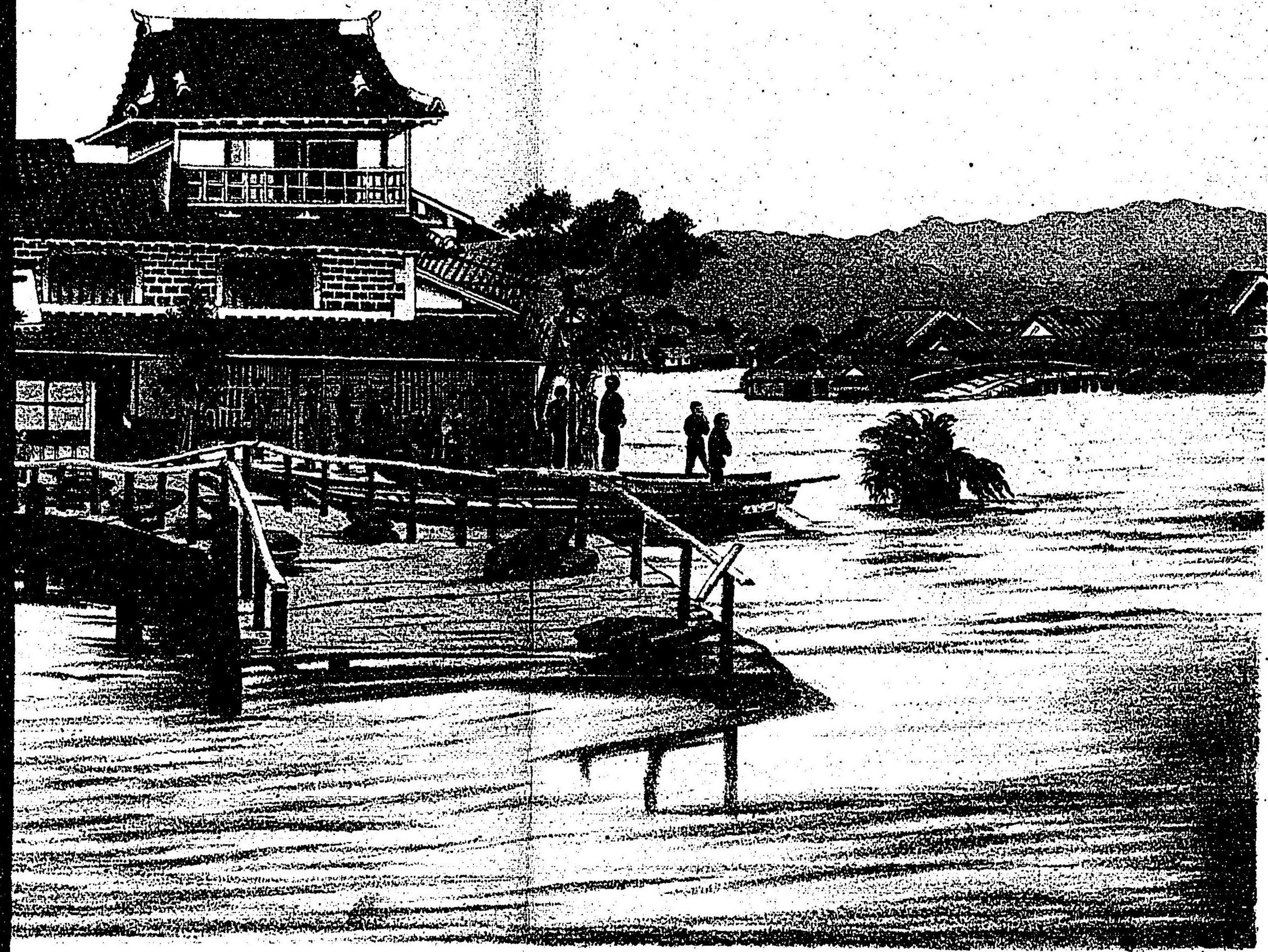
北新金屋町圓福院

八月二十二日夕ヨリ九月二日夕迄團飯焚出シ

壹番丁縣會議事堂

九月十三日朝ヨリ全十六日夕迄團飯焚出シ

同上遭災ニ就テ焚出費消米額及食料配與金額并
ニ義捐金分配金額等ハ左ノ如シ
焚出費消米額



明治二十二年九月十二日和歌山市街第二面洪水

右

第一回分百七十二石七斗八合 此金千二百七十六圓三拾七錢
 第二回分六十八石六斗二升六合 此金四百九圓五十六錢壹厘
 合計二百四十一石三斗三升四合 此金千六百八十五圓九拾三錢壹厘
 食料給與金額

第一回壹萬〇八百九拾圓四拾錢五厘 受給人員壹萬九千二百二十七人
 此米千五百八十九石八斗四升 此戶數六千五百九戶

第二回五千參百五拾九圓貳拾錢 受給人員壹萬七千五拾三人
 此米七百十四石五斗六升 此戶數五千五百四十一戶

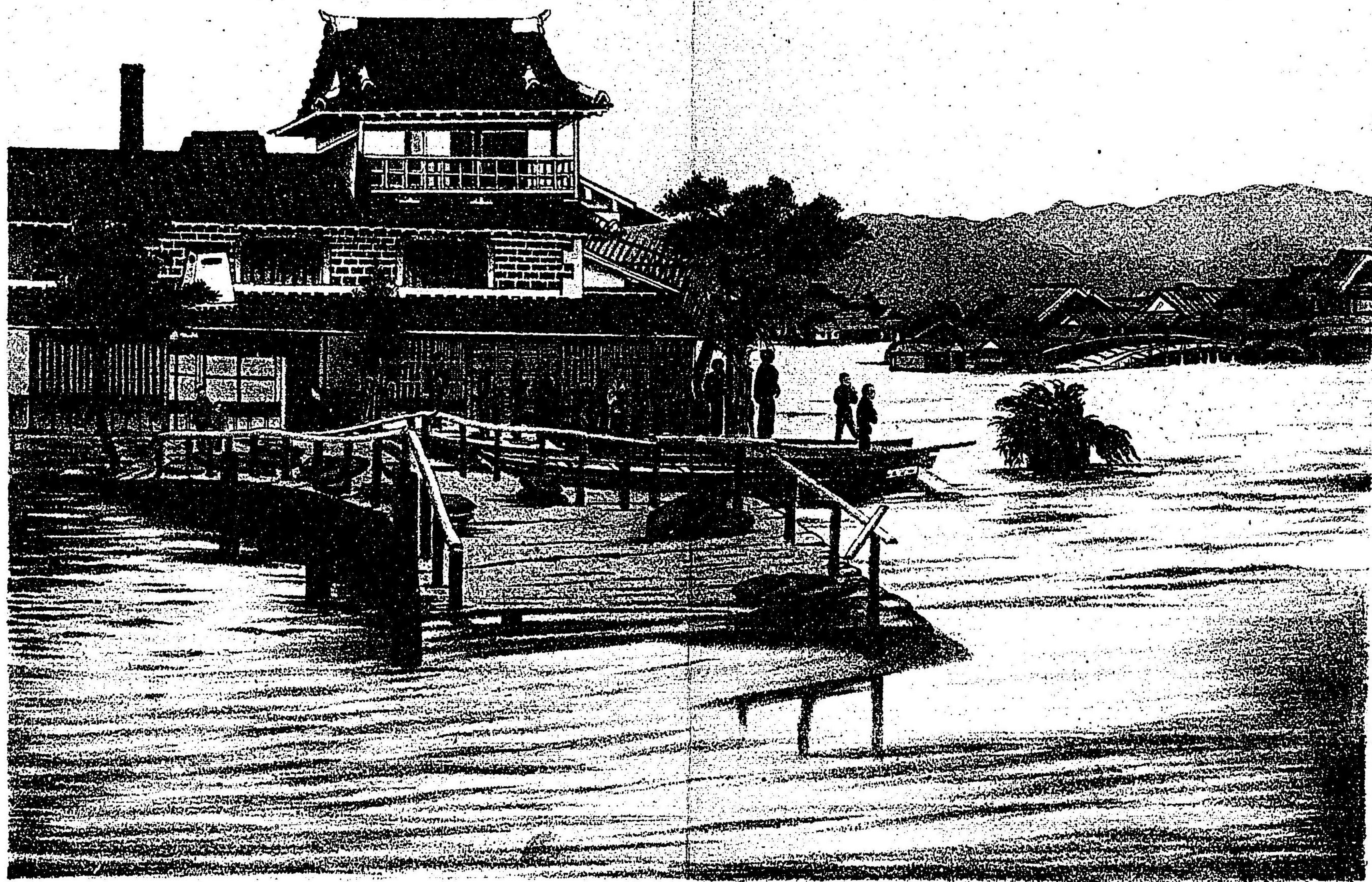
合計壹萬六千貳百四拾九圓六拾錢五厘
 義捐金四千八百六拾六圓四拾七錢四厘

此配與戶數人員 六千五百十六戶 此人員貳萬八百五十一人

右

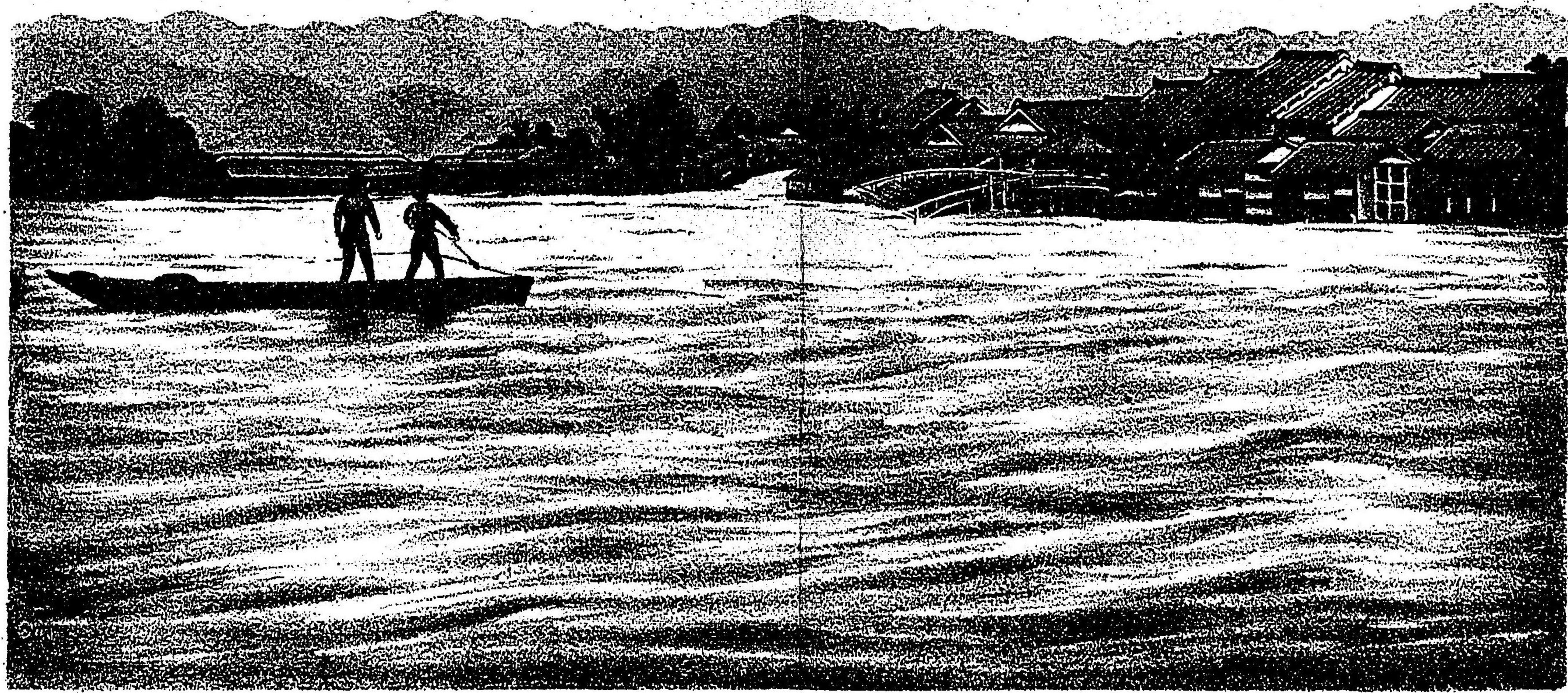
此米七百十四石五斗六升
此戶數五千五百四十一戶
合計壹万六千貳百四拾九圓六拾錢五厘
義捐金四千八百六拾六圓四拾七錢四厘
此配與戶數人員 六千五百十六戶 此人員貳万八百五十一人

明治二十二年九月十二日和歌山市街第二回洪水

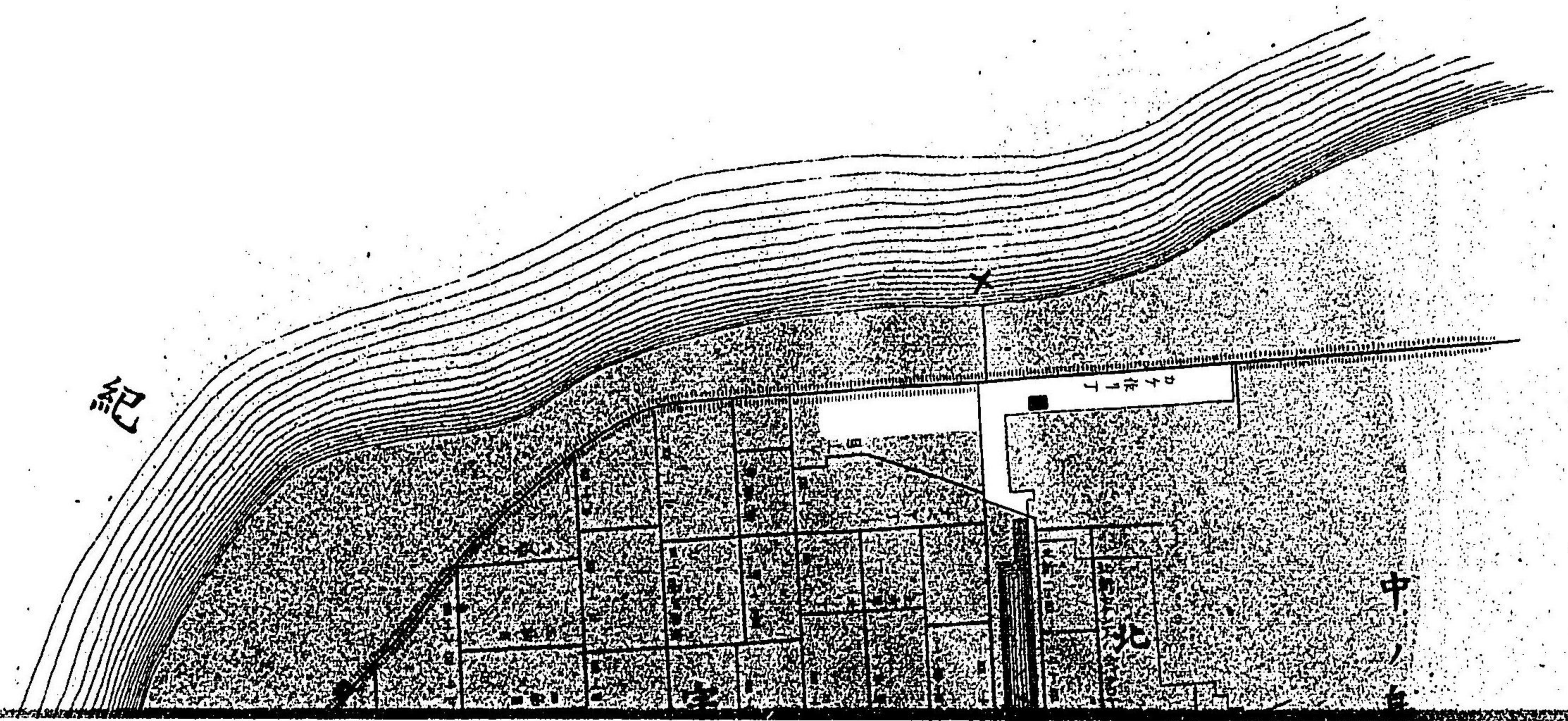


表橋ヨリ新町北部ノ圖

明治三十二年九月十二日和歌山市街第二回洪水



北新町ノ圖

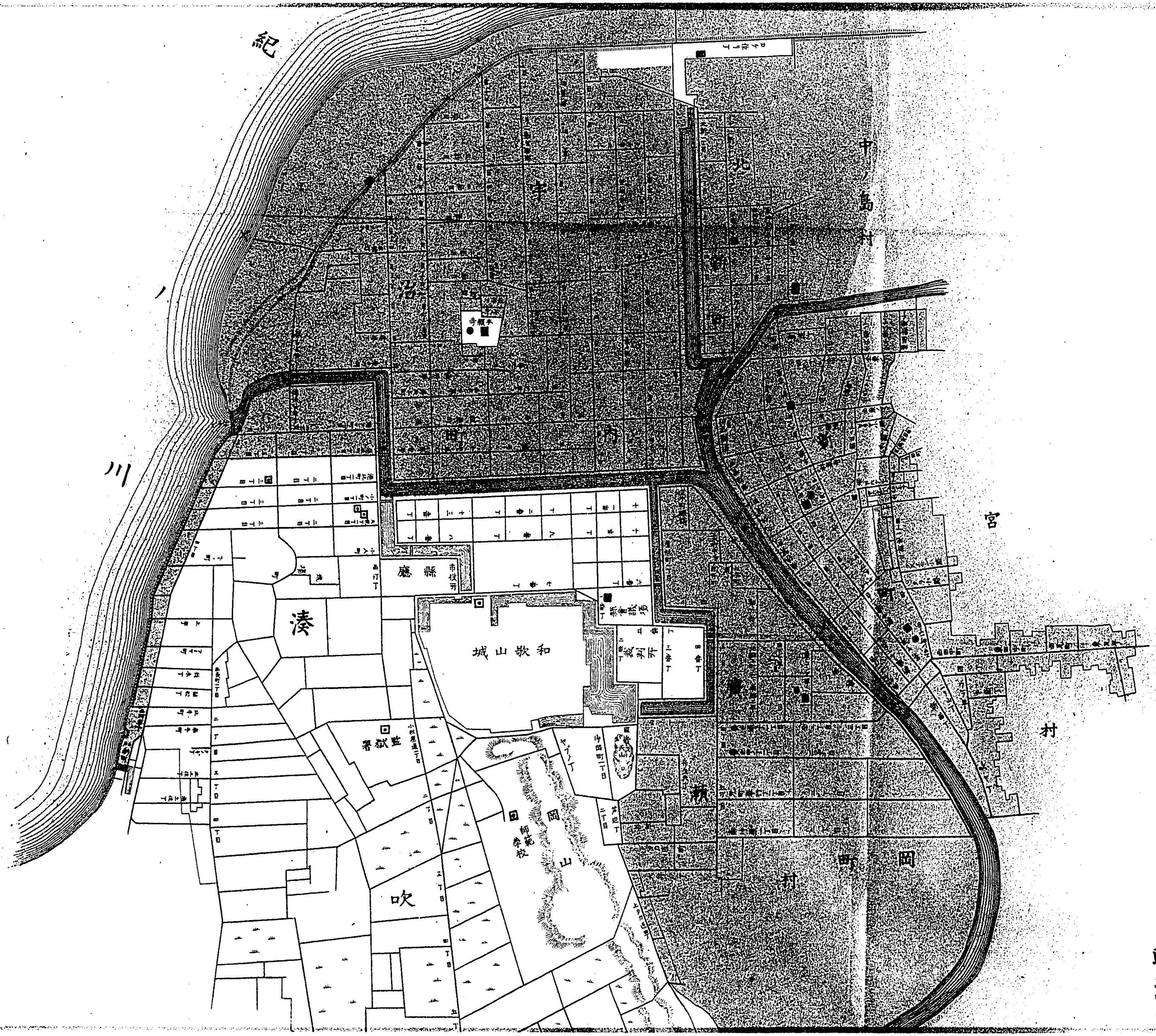


紀

中ノ

北

中



紀

川

中ノ島村

宮

村

湊

和歌山城

監獄署

吹上

和歌山

吹上

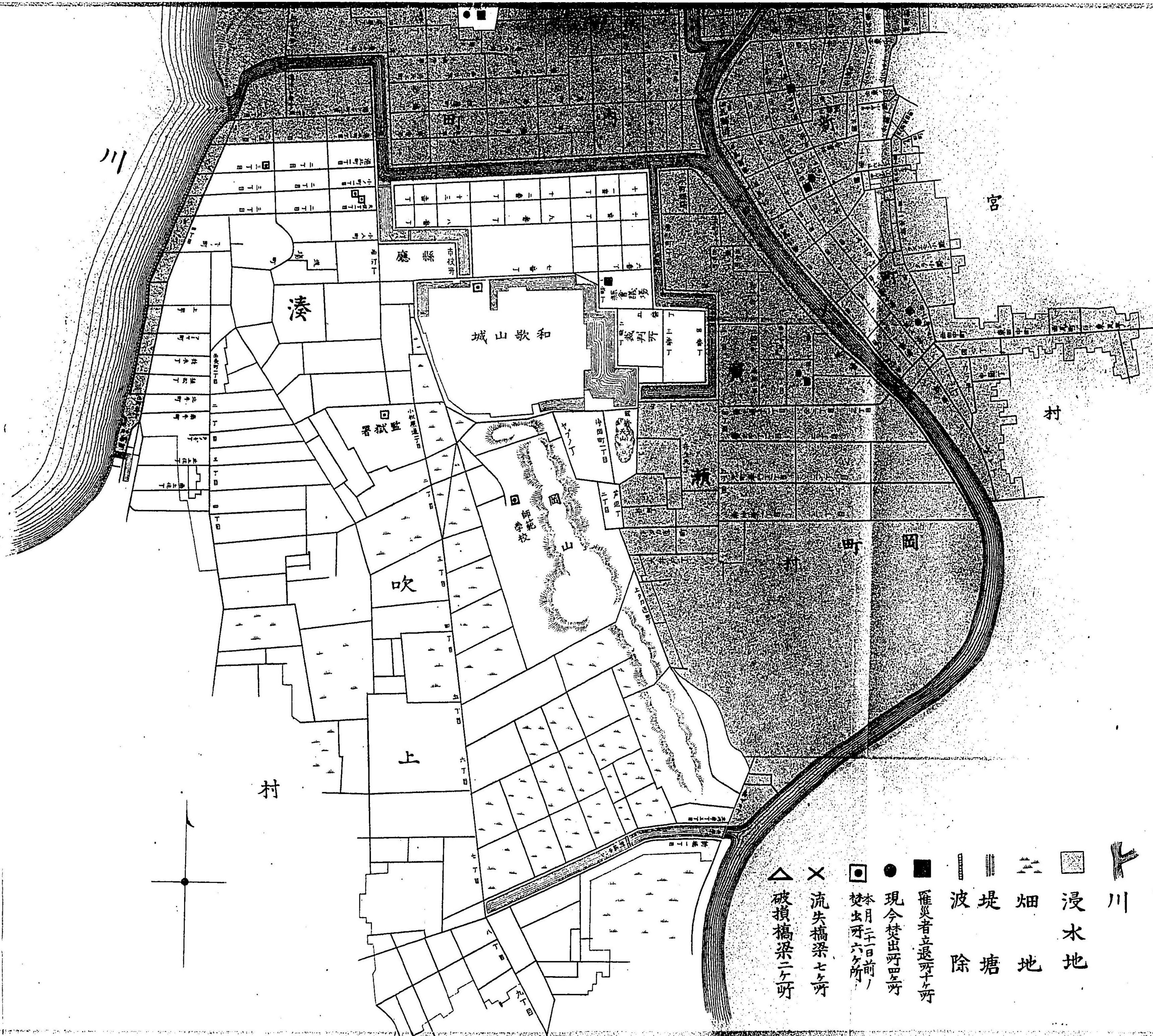
吹上

吹上

吹上

明治二十

明治二十二年水害圖



水害圖

川

■ 浸水地

三 畑地

堤塘

波除

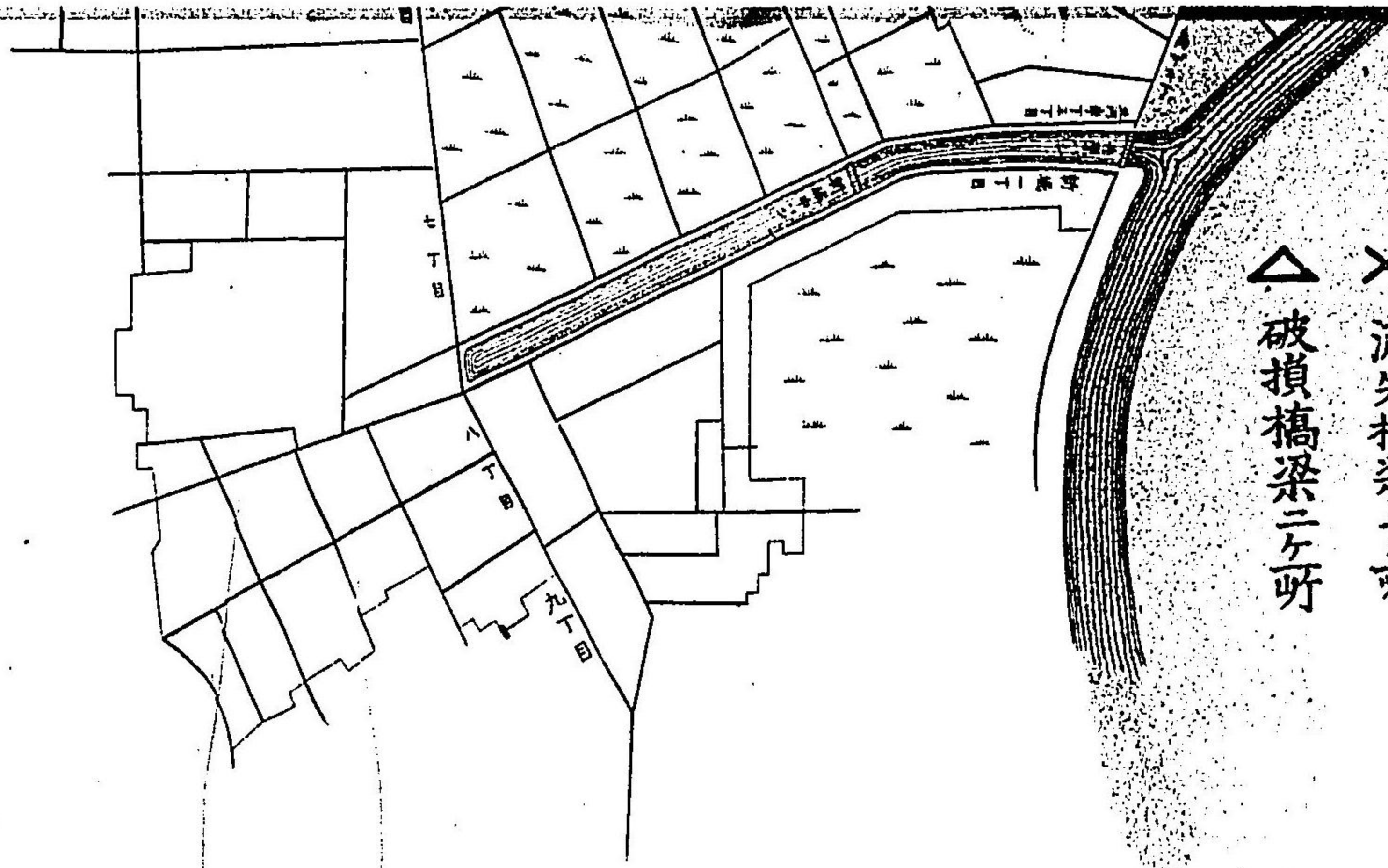
● 罹災者立退野十ヶ所

● 現今焚出野四ヶ所

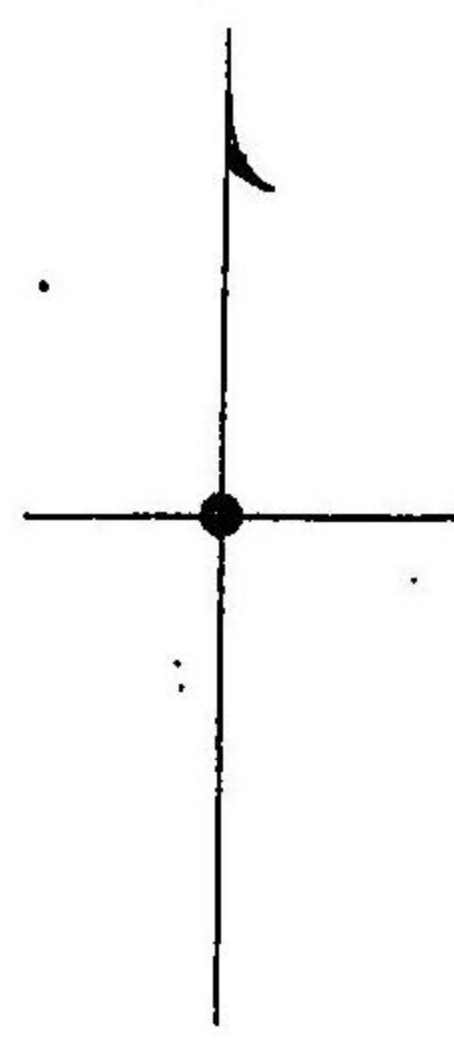
□ 本月二十日前
焚出野六ヶ所

× 流失橋梁七ヶ所

△ 破損橋梁三ヶ所



村



治部	新町北	新町南	吹上	廣瀬部	内町部	宇治部	新町北	南	北	吹上	治部
鷺ノ森東ノ丁 鷺ノ森西ノ丁 尺ノ丁 鷺ノ森片山ノ丁 鷺ノ森明神ノ丁 鷺ノ森新道ノ丁 専光寺門前ノ丁	北新一丁目 北新二丁目 北新三丁目 北新四丁目 北新五丁目 北新七丁目 北新博勢町 北新我ノ丁	東瓦ノ町 西瓦ノ町 東田ノ町 中田ノ町 西田ノ町 中田南一里山ノ丁 北一里山ノ丁	新通一丁目 新通二丁目 新通三丁目 新通四丁目 新通五丁目 新通六丁目 新通七丁目 新通八丁目 新通九丁目 新通十丁目 新通十一丁目 新通十二丁目 新通十三丁目 新通十四丁目 新通十五丁目 新通十六丁目 新通十七丁目 新通十八丁目 新通十九丁目 新通二十丁目	一丁目 二丁目 三丁目 四丁目 五丁目 六丁目 七丁目 八丁目 九丁目 十丁目 十一丁目 十二丁目 十三丁目 十四丁目 十五丁目 十六丁目 十七丁目 十八丁目 十九丁目 二十丁目	本町一丁目 本町二丁目 本町三丁目 本町四丁目 本町五丁目 本町六丁目 本町七丁目 本町八丁目 本町九丁目 本町十丁目 本町十一丁目 本町十二丁目 本町十三丁目 本町十四丁目 本町十五丁目 本町十六丁目 本町十七丁目 本町十八丁目 本町十九丁目 本町二十丁目	鷺ノ森 鷺ノ森	鷺ノ森 鷺ノ森	鷺ノ森 鷺ノ森	鷺ノ森 鷺ノ森	鷺ノ森 鷺ノ森	鷺ノ森 鷺ノ森

備考 床上浸水ノ度ハ每大字中最高ニ就キテ其度ヲ記入シタルモノナリ大字中浸水ノ度ヲ記入ナキモノハ該大字内ニ全ク戸數ナキニ依リ床上浸水ノ度ヲ調査スルニ由ナキ故之レヲ除キタルモノナリ

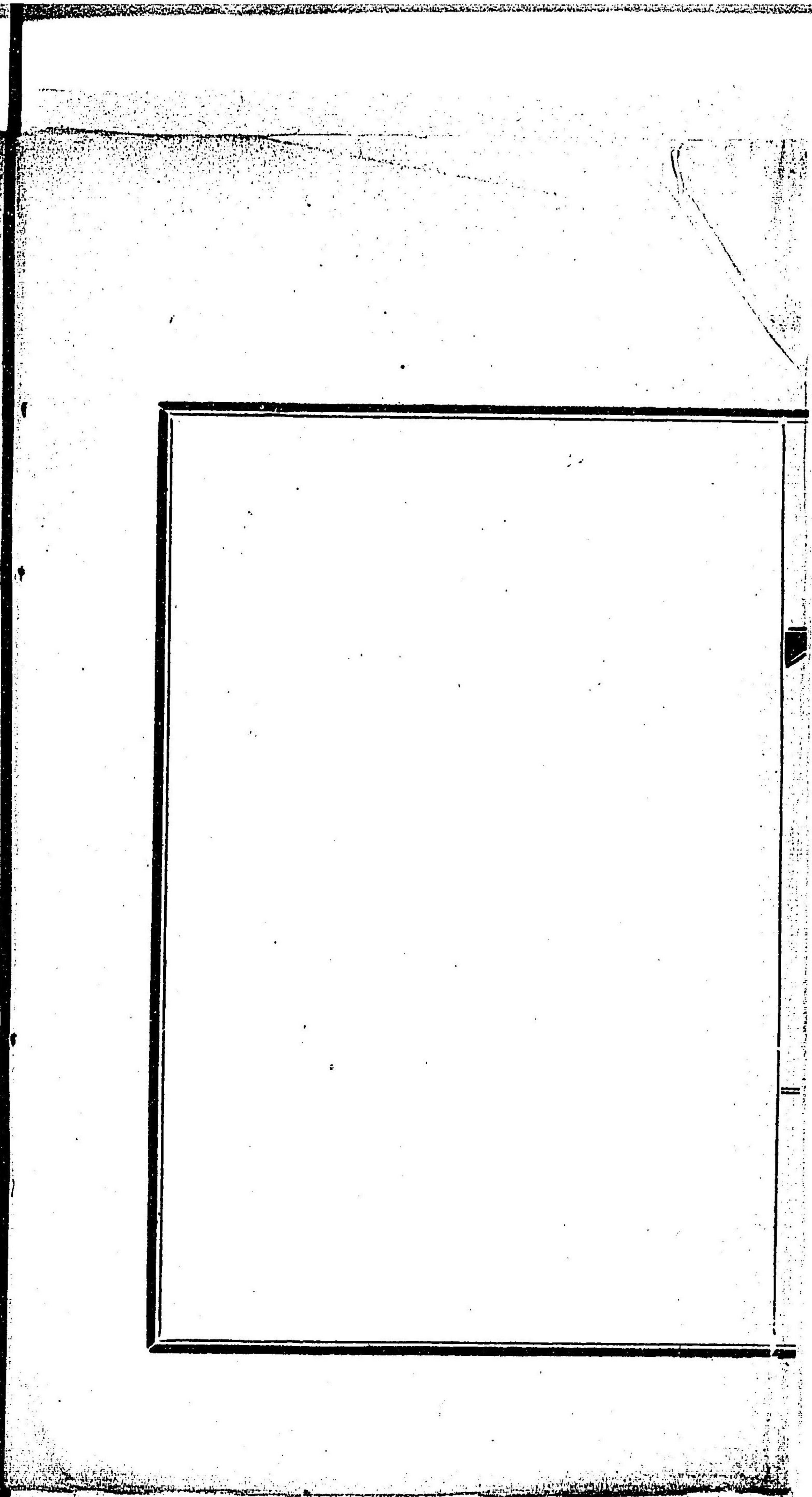
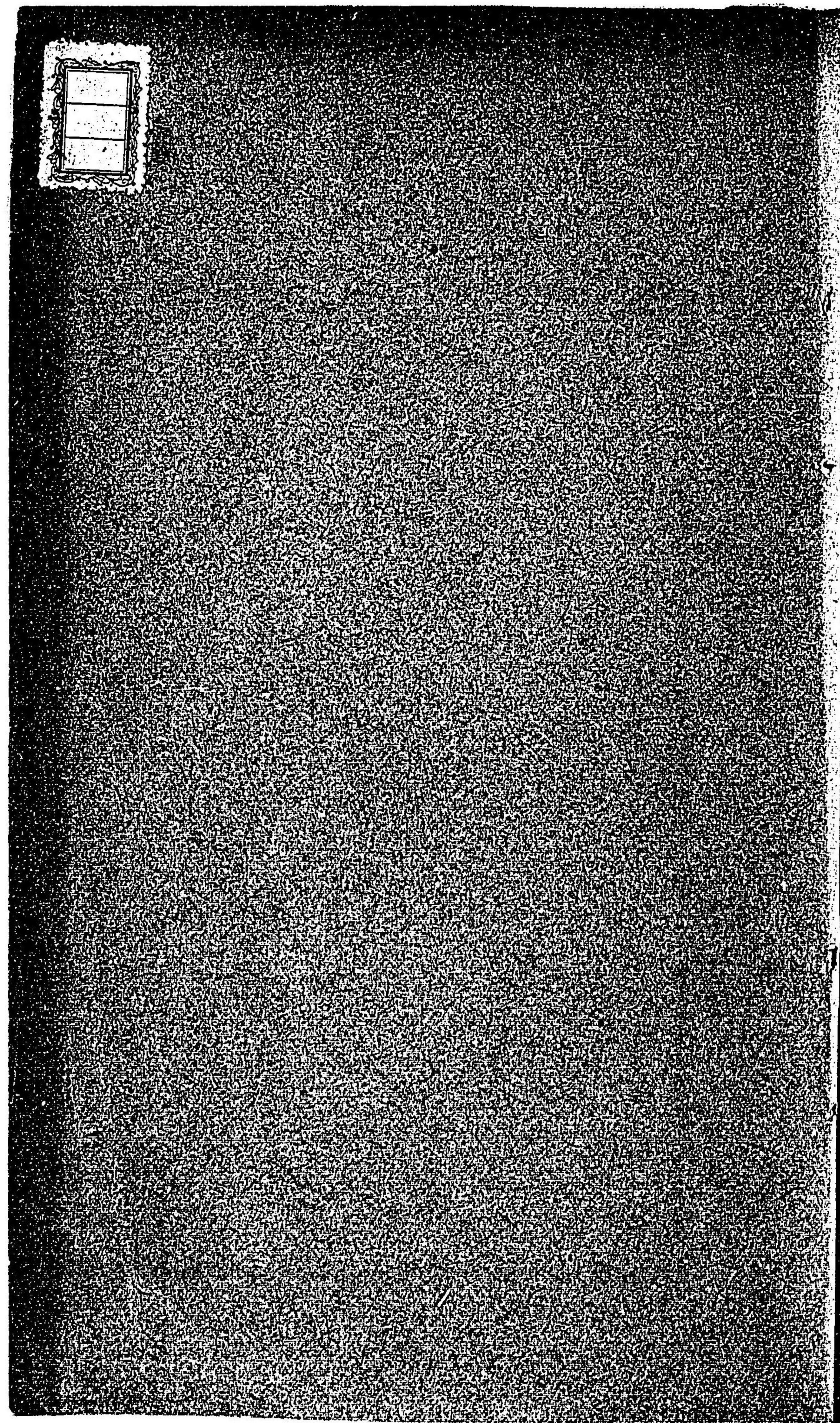
明治二十九年六月十日印刷
明治廿九年六月十三日發行

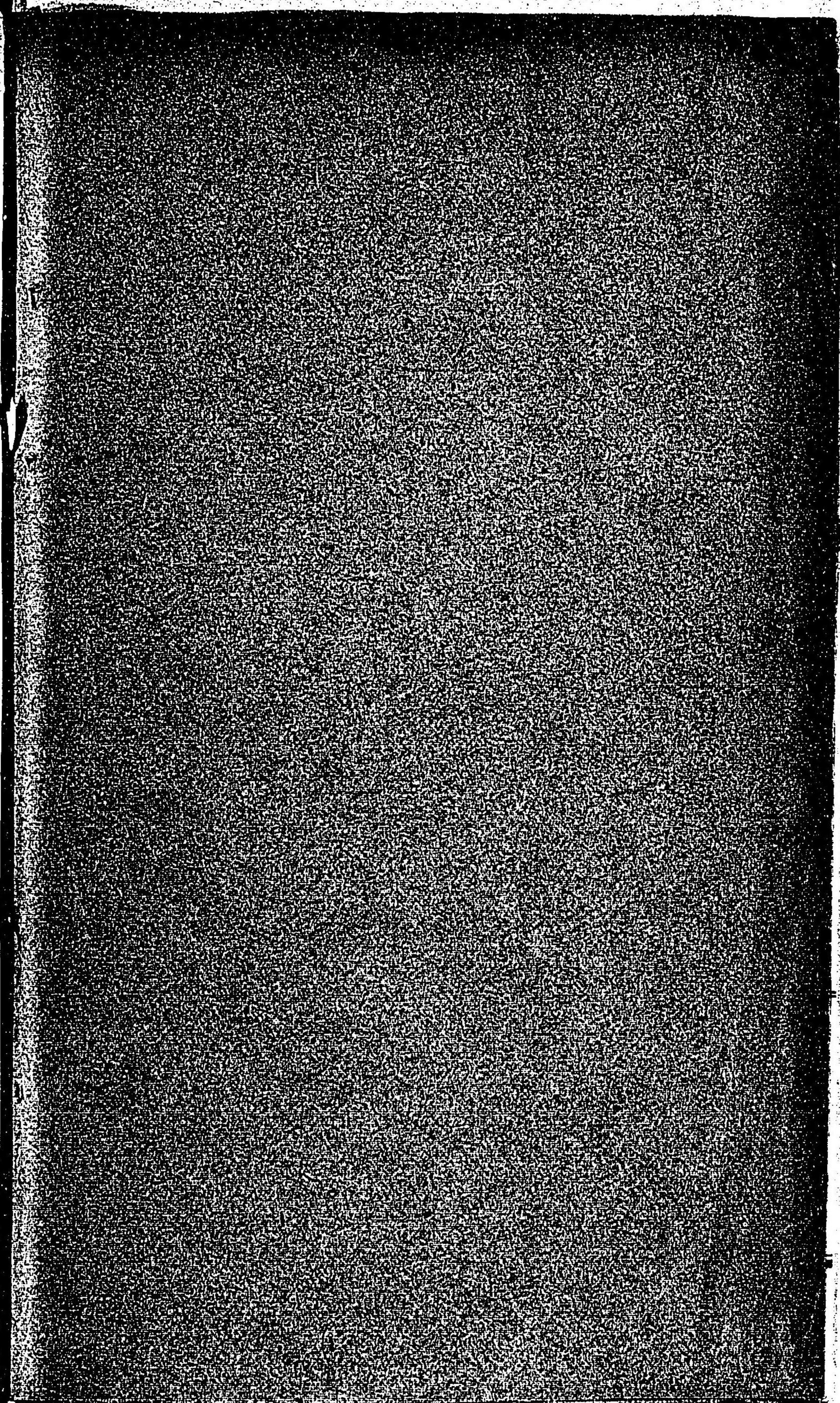
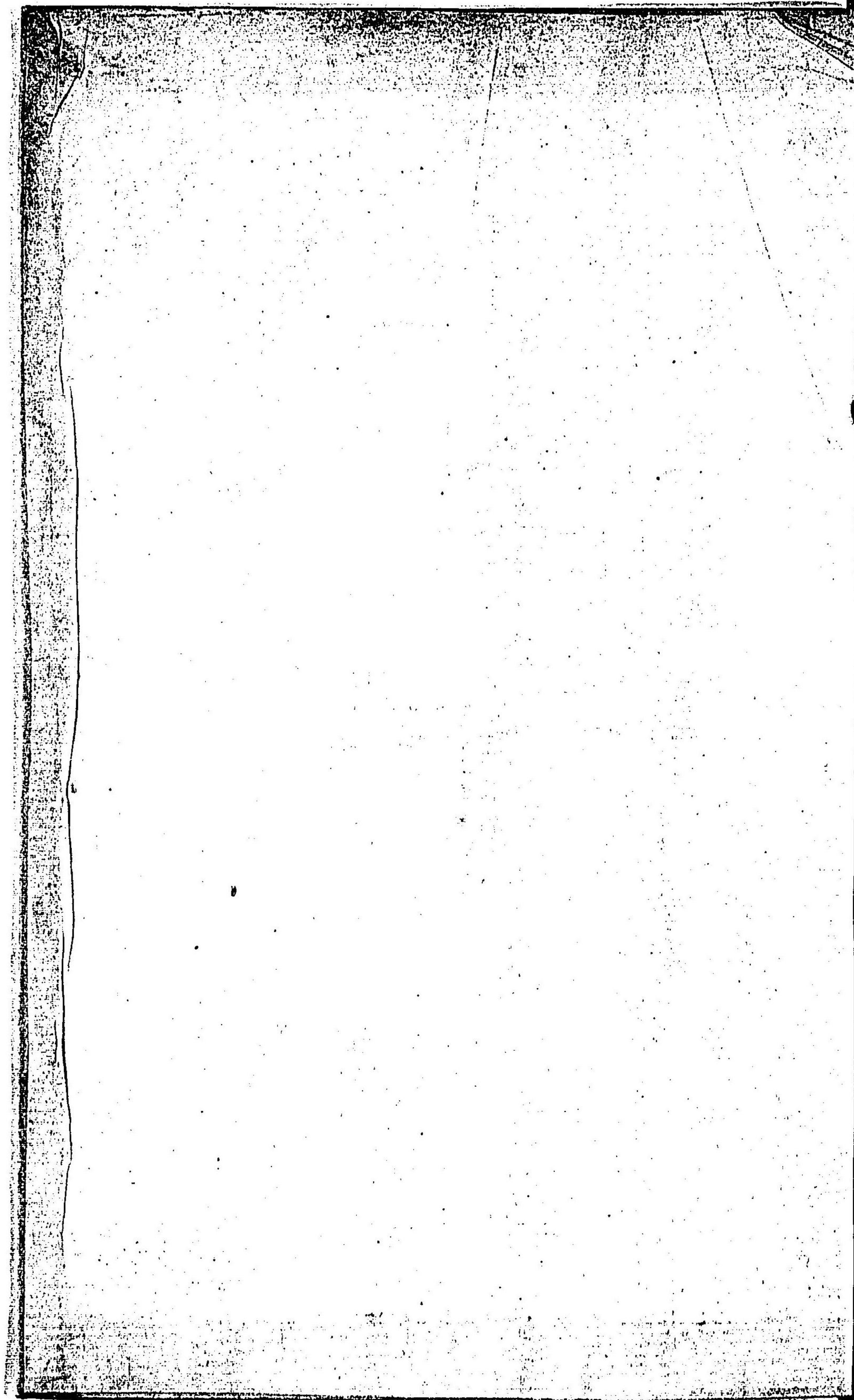
非賣品

著者 和歌山市役所

印刷者 渡邊恭太郎
和歌山縣和歌山市東長町十一丁目三番地

印刷所 耕文舎
和歌山縣和歌山市十一番丁七番地







109

51

025729-000-7

109-51

和歌山市水害記事

和歌山市

M29

ADC-3263

